

平成 30 年 3 月 22 日

森町長 太田康雄 様

公立森町病院経営改革プラン評価委員会
委員長 高橋 泰

森町病院事業経営改革プラン評価委員会意見書

森町病院事業経営改革プラン評価委員会において協議した結果について、以下のとおり意見書として提出する。

評価総括：来年度の診療報酬改定は、生活密着・支援型の医療を提供する病棟を拡大する方向で進められた。これまで森町病院の取り組んできた改革の方向性と一致しており、森町病院にとってプラス改定となった。入院・外来の患者数は減少しており診療収入は減少しているが、それに見合った人件費や経費などが削減され、平成 29 年度の収支は、経営計画どおりにほぼ達成された。地域の患者減少などの環境変化にもうまく対応し、適切な形でダウンサイジングが進み、経営改革が着実に進められている。
取り組み結果の評価については、下記のとおり具体的な意見があった。

(1) 平成 29 年度 第 4 次経営改革プラン取組結果・評価について

入院医療：経営改革プランでは急性期病棟の看護基準が 10 対 1 の計画であったが、看護師の減少はあったものの配置を工夫した結果、7 対 1 を算定出来たことは診療報酬改定後の経過措置の対象となるため良かったが、地域包括ケア病棟でも改革プランの計画どおり看護職員配置加算を取得することが望ましい。一年を通じて病棟薬剤管理件数が 0 件なので算定する努力をしてもらいたい。回復期リハビリテーション病棟の利用率は年間を通じて 100% となり、素晴らしい数字であるので今後も継続してほしい。

訪問看護：訪問回数が減少し単価も低下しているので、原因をしっかりと分析・把握して対応してほしい。

コスト削減：給与費や診療材料費、経費など予想以上にコストが削減出来ている。社会・医療情勢や地域の要請に応えるよう体制を変えて対応できている。レセプトチェックなどで算定状況を見直すため、コンサルタントに委託することは有効な手段である。

(2) 平成 30 年度 事業計画(案)について

入院医療：病床利用率について、急性期病棟と地域包括ケア病棟は平成 29 年度実績に基づいて目標ダウンしているのは理解できるが、回復期リハビリテーション病棟での 95% は十分高い目標数値ではあるが、実績からすればもう少し高い目標にしても良いと思われる。

外来医療：外来患者の確保が厳しいため、診療の質を高めて単価を上げるというロジック

は間違いであり表現を修正してほしい。一日外来患者数 260 人が適正な目標なのか判断が難しいところではあるので、他の医療機関を選択して森町病院に来なくなる人、経済的理由や介護力の低下などの理由により通院出来なくなる人などの患者動向を分析して外来患者の目標設定に活かしてほしい。

地域連携：紹介・逆紹介率は低下しているので、中東遠医療圏の中での連携強化のための仕組みを検討してほしい。

訪問看護：特別な関係にある医療機関への情報提供についても算定可能となったので、診療報酬改定への対応を強化してほしい。

働き方改革：改革への取り組みでは、院長のリーダーシップだけでなく、院内では事務局長や看護部長、また町長、議会など町全体の取り組みとして進めてほしい。

【日時】 平成 30 年 3 月 17 日（土）午後 2 時 00 分～午後 5 時 00 分

【場所】 家庭医療センター 会議室

【協議事項】

- (1) 平成 29 年度 第 4 次経営改革プラン取組結果・評価について
- (2) 平成 30 年度事業計画（案）について

【出席者】（五十音順、敬称略）

公立森町病院経営改革プラン評価委員会出席者名簿(敬称略)

	名前	役職等	出欠
委員長	高橋 泰	国際医療福祉大学大学院教授	出席
	小林利彦	浜松医科大学付属病院 医療福祉支援センター長	欠席
	山岡泰治	浜松医科大学特任教授	出席
	安間 剛	静岡県西部保健所長	出席
	石坂恭一	磐周医師会長	欠席
	岩谷信行	森町医会代表	欠席
	川崎義夫	学識経験者	出席
	山本俊康	森町議会議長	出席
	高野一利	森町病院友の会代表	出席
	長野 了	森町役場企画財政課長	欠席
	村松成弘	森町役場保健福祉課長	出席
	中村昌樹	公立森町病院長	出席
	高田志郎	公立森町病院事務局長	出席

計 9 名